

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 6名回答、回答率 100%
保護者様： 22名回答、回答率 100%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・動と静のスペースに分け、遊びや活動の内容によって区切りながら工夫している。クールダウンスペースや保護者面談などのスペースがないため、今後はパーテーションやカーテンで区切ることも検討が必要である。
- ・職員配置は適切だが、送迎時など職員数が少なくなる場合は、教室内で安全面を考慮した体制を整えている。
- ・建物の構造上バリアフリー化が難しい。
また、事業所が2階のため階段に手すりはついていないが、常に安全に留意し児童を誘導している。

○業務改善

- ・都度、上長と業務について話し合い、改善出来るよう心がけている。
- ・保護者アンケートの結果や保護者からの意見を職員間で共有して、業務改善につなげている。
- ・虐待防止研修、安全管理研修、階層別研修など様々な会社の研修に参加し、必要に応じて教室内研修を行っている。

○適切な支援の提供

- ・活動プログラムが固定しないように複数の職員で素案を出して行っており、現在の各々の児童の課題なども考慮し、必要な療育の提供を行っている。
- ・業務開始前のミーティングの際や気になることがある時には、職員間で話し合い、支援についての情報共有を常時行っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・就労先などの連携は、中高生のクラスに移行するため直接は行っていないが、中高生クラスの職員へ児童の情報を共有している。
- ・子どもの発達状況や課題について共有するため、面談や家庭連携、日々の送迎時や連絡帳を通じて、お子様への伝え方やお声掛けの仕方などの提案を行っている。

○保護者への説明責任等

- ・保護者会についてはコロナ禍以降、現在は行うことが出来ていないので、今後開いていけるように企画していきたい。
- ・ニュースレターの他、療育企画などチラシを作成してお伝えしている。

○非常時等の対応

- ・月に1回の避難訓練を実施。毎月曜日、内容を変え、児童・スタッフともに全ての人が参加できるように工夫している。
- ・必要に応じて、教室内研修も実施している。
- ・ヒヤリハットの作成が出来ていないので、今後は作成できるようにしていきたい。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・職員の配置数や専門性は適切であるかという質問に9割りの方から「はい」とご回答をいただいた。
- ・子どもたちが安心して活動できるスペースが確保されている。
- ・バリアフリーに関しては「どちらともいえない」が多かったが、「エレベーターはないが階段に手すりがある」など、安心して通えるという意見を多くいただいた。

○適切な支援の提供

- ・活動プログラムが固定化されない様に工夫されているかについて9割の方から「はい」とご回答をいただいたが、外出プログラムを増やしてほしいとのご意見もいただいた。
- ・児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会については、学校などで行っている為、求める意見はなかった。

○保護者への説明等

- ・支援内容、利用者負担等について丁寧な説明がされているかについては「はい」のご回答が4割であった。
- ・日頃から子どもの状況について、連絡ノート、個人面談、その他メールでフォロー頂き、ありがたいとのご意見をいただいた。
- ・保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行なわれているかという質問に対して「はい」の回答が多かった。
- ・子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮がなされているかという質問に対して「はい」のご回答が100%であった。
- ・保護者会や保護者同士の交流は、コロナ禍や色々な感染症があり、交流は出来ていないという意見をいただいた。

○非常時等の対応

- ・8割の保護者様から必要な避難、救出、その他の訓練が定期的に行われているとの解答をいただいた。

○満足度

- ・「とても安心出来る居場所です」「なかなか雰囲気馴染めない子どもですが、楽しそうで安心しています」などのご意見をいただいた。
- ・事業所の支援に満足しているかの質問に対して、毎週楽しみに通っており、感謝している等のご意見をいただき、「はい」の回答が90割であった。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・外部講師の研修や社内研修への参加
- ・ミーティング内容の専門性の強化
- ・家庭連携の機会を増やす
- ・保護者会の実施

○改善できた点・まだ残る課題

- ・非常勤職員も含め、職員全員が様々な研修に参加したため、意識の向上やスキルアップにつなげ出来、教室研修にもつなげることが出来た。
- ・ミーティング内容の専門性を強化したことにより、職員の安全管理意識が高まった。
- ・一部の家庭にはコンスタントに家庭連携を行うことが出来たが、それ以外の新しい家庭連携が難しい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・通所を楽しみにしている児童が多く、年度内に利用日数を増やしていただけたなど満足度が高い。
- ・限られたスペースを工夫して活用し、事故なく日々安全に過ごしている。
- ・それぞれの児童に対しての課題や支援方法を理解し、全職員が協力して療育の立案・提供が出来る。
- ・MTノートや業務前MTGにて職員間で細やかに連携を取り、共通理解で支援につなげている。

○改善点

- ・保護者会を開催することが出来なかった
- ・コロナ緩和により外出プログラムの希望が多かったが準備・企画に時間を要し、開催が少なかったため、
今後は外出プログラムの見直しを行い、課外活動を増やしていく
- ・家庭連携の強化、新規家庭の獲得と実施方法の検討

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・活動プログラムの拡大
- ・家庭連携の対象家庭増加
- ・保護者会の開催

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者会の開催に向け、保護者に日程や時間などのアンケートを取り、会の開催方法、日時を検討し、
多くの保護者が保護者会に参加できるよう取り組む。
- ・活動プログラム立案に対し、多くの利用者に利用していただけるよう、準備・企画を計画的に進めていく。
- ・新規で家庭連携を行える家庭を増やすために、各家庭のニーズを調査すると共に家庭連携実施の方法を
再度検討する。